

2050年に向けて——環境・社会の価値を創造し、

積水ハウスグループは2008年に、住まいからのCO₂排出ゼロを目指す「2050年ビジョン」を宣言し、「脱炭素」経営にいち早くかじを切りました。社会システムの変化や技術革新のスピードが加速する中で、2016年度は将来のさらなる環境変化に備え、より広範な事業領域において時間軸を意識して、2050年に向けた長期ビジョンを策定しました。2017年度は、お客様、従業員、長期投資家、サプライヤーなど、当社グループの長期的な価値実現に関心を持つステークホルダーと進捗の道筋を共有するため、2030年を見据えた中期の取り組みを示しました。

サステナビリティビジョン2050

	目指す姿	実践してきた主な活動
	<h3>脱炭素社会へ先導</h3> <p>地球温暖化による気候変動は私たちの暮らしに目に見える影響を与え始めています。化石燃料への依存を続けることなく、エネルギー問題に制約されず、質の高い安全な暮らしが可能な社会を実現します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●「エコ・ファーストの約束」公表(2008年) ●環境配慮型住宅「グリーンファースト」発売(2009年) ●ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス「グリーンファースト ゼロ」発売(2013年) ●パリ協定遵守宣言(2015年) ●国際イニシアチブ「RE100」に加盟、コミットメントを公表(2017年)
	<h3>人と自然の共生社会へ先導</h3> <p>豊かな自然のネットワークは、生物多様性の保全に寄与し、気候変動を緩和させるなど、私たちの暮らしを支える生態系サービスを守るだけでなく、人々の生活の質を改善し、つながりを強めることに貢献します。このネットワーク機能を最大化し、人と自然の共生社会を実現します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●「5本の樹」計画開始(2001年) ●「木材調達ガイドライン」制定(2007年)
	<h3>資源循環型社会へ先導</h3> <p>世界人口の増加に伴い、資源やエネルギーの需要が高まる中、すべての人が安定した暮らしを送るため、技術や経済システムの革新によって、天然資源だけに依存しない、リサイクル資源を持続的に活用する循環型社会を実現します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●全工場で廃棄物のゼロエミッション達成(2002年) ●新築施工・アフターメンテナンス・リフォームの各段階で廃棄物のゼロエミッション達成(2005～2007年) ●ビッグデータ活用に対応した次世代システムに移行(2017年)
	<h3>長寿先進・ダイバーシティ社会へ先導</h3> <p>高齢者が健康で誇り高く活躍する社会(長寿先進社会)、そして、多世代・多国籍・多様な価値観を持った人々が互いに好影響を發揮し合いながら持続可能なイノベーションを実現していく社会(ダイバーシティ社会)の形成を目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●日本初の「障がい者モデルハウス」建設(1981年) ●「生涯住宅」を当社の住まいづくり思想として定義(1989年) ●「積水ハウスのユニバーサルデザイン」確立(2002年) ●「人材サステナビリティ」発表(2006年) ●「心地よさ」まで追求した「スマートユニバーサルデザイン」提案開始(2010年) ●空気環境配慮仕様「エアキス」発売(2011年)

持続可能な社会を先導

「シナリオプランニング」という観点から取り組みを推進

当社では、2005年に持続可能性を経営の軸に据えるという「サステナブル宣言」を行い、次のように述べました。

「持続可能な社会の構築に向けた企業の責任とは、どのような社会をつくるために自社がどのような『役割』を担おうとするのかを明らかにし、その取り組みを社会にコミュニケーションしていくことであると考えています」。

そして、そのために採用したのが将来像から逆算する「バックキャスト」の手法でした。この思いは一貫して変わりませんが、社会の動きがますます複雑化し、不確実性を増す中で、未来への洞察をより明確にするために、起こり得る複数の未来を意識した「シナリオプランニング」をより具体的に進めています。

2030年の目標	関連する 主なSDGs	2050年のチャレンジ目標	関連する 主なCSV戦略
<p>SBT目標の達成</p> <p>住宅のライフサイクルにおけるCO₂排出量ゼロを目指す中、スコープ1、2およびスコープ3(カテゴリ11:居住)排出量をそれぞれ2013年度比で35%削減、45%削減することを目指します(SBT目標*)。また、「RE100」加盟企業として事業活動で消費する電力の50%を再生可能エネルギーで賄います。 ※ P.28参照</p>	<p>目標 7 エネルギー 目標 11 持続可能な都市 目標 12 生産・消費 目標 13 気候変動 目標 17 パートナーシップ</p>	<p>住まいのライフサイクルにおけるCO₂ゼロ</p> <p>リーディングカンパニーとして、住宅という製品について、材料購入から生産、販売、居住、解体までのライフサイクル全体において、再生可能エネルギーの利用も含めて、CO₂排出量をゼロにします。</p>	<p>CSV戦略 1 CSV戦略 6</p>
<p>生物多様性の主流化をリード</p> <p>地域の生態系に配慮した在来種中心の植栽提案「5本の樹」計画に基づく植栽本数について、年間100万本規模を持続し、都市緑化の一層の拡大を進めるとともに、標準的な積水ハウスの住宅において、持続可能性に配慮した公正な木材「フェアウッド」調達100%を目指します。</p>	<p>目標 6 水・衛生 目標 11 持続可能な都市 目標 12 生産・消費 目標 14 海洋資源 目標 15 陸上資源 目標 17 パートナーシップ</p>	<p>事業を通じた生態系ネットワークの最大化</p> <p>生態系の破壊につながる森林破壊をゼロにする(Zero Deforestation)ために「フェアウッド」調達100%を実現します。また、住宅建築、まちづくりにおける緑化を通じて、生態系保全、防災・減災、快適性等、自然が持つグリーンインフラ機能を賢く利用する都市緑化貢献度日本一の企業を目指します。</p>	<p>CSV戦略 2 CSV戦略 6</p>
<p>循環型事業の制度整備加速</p> <p>建設業界で最初に取得した廃棄物処理法の特例制度である「広域認定制度」の対象範囲を拡張しながらストックビジネスへの対応を充実。同時にIT技術の活用を加速し、クラウドを中心とした廃棄物回収の電子管理システム等で管理の精度向上と効率的で円滑な運営を進めます。</p>	<p>目標 11 持続可能な都市 目標 12 生産・消費 目標 17 パートナーシップ</p>	<p>住まいのライフサイクルにおけるゼロエミッションの深化</p> <p>住宅を良質な資産として育てるため、住まい方や社会変化に対応する適切なリフォーム・リノベーションを当社グループで提供。これらの過程で発生する廃棄物について、業界に先駆けて達成したゼロエミッションを深化させ、業界連携による社会インフラレベルでのゼロエミッションを実現します。</p>	<p>CSV戦略 4</p>
<p>住宅における新たな価値の提供</p> <p>構造、インテリア、環境配慮などの有形資産だけでなく「健康」という無形資産に着目し、健康長寿をもたらす家づくりを推進することにより、人生100年時代の幸せを提供します。具体的には家庭内事故の防止・発生時の緊急対応、生活習慣病のモニタリング、ストレス軽減による疾病予防などに取り組みます。</p>	<p>目標 3 保健 目標 4 教育 目標 5 ジェンダー 目標 8 経済成長・雇用 目標 9 イノベーション 目標 11 持続可能な都市 目標 12 生産・消費 目標 17 パートナーシップ</p>	<p>住まいとコミュニティの豊かさを最大化</p> <p>安全・安心・快適、最新技術の享受、健康、長寿、幸福感、家族とのきずななど、生活にとってポジティブな要素を「豊かさ」と位置付け、さまざまな角度からその可能性を追求します。「豊かさ」の最大化をミッションとして、新技術の開発、オープンイノベーションなどに挑み続けます。</p>	<p>CSV戦略 3 CSV戦略 5 CSV戦略 6</p>

「CSV 戦略」を推進

積水ハウスグループでは、住宅は社会課題の中心に位置するととらえ、持続可能な社会を実現するための重点テーマとして「CSV 戦略」を設定しています。GRI スタンダードの項目別のスタンダードから選定した17のマテリアルな項目を中期経営計画に沿って、六つの「CSV 戦略」として具体的な活動レベルに束ねています。

価値創造の重点テーマ「CSV 戦略」

		関係する 2050 年のチャレンジ目標
1	住宅のネット・ゼロ・エネルギー化 エネルギー問題に制約されない質の高い暮らしを実現し、環境配慮とお客様の健康寿命の伸長に貢献する	住まいのライフサイクルにおける CO ₂ ゼロ
2	生物多様性の保全 事業の影響力を考慮し、持続可能な自然資本の利用によって生態系ネットワークを守る	事業を通じた生態系ネットワークの最大化
3	バリューチェーンを通じた顧客価値の最大化 ビッグデータの活用とステークホルダーとの協働で「最高の品質と技術」を実現する	住まいとコミュニティの豊かさを最大化
4	アフターサポートの充実による住宅の長寿命化 グループ各社の連携によって、お客様の暮らしを長期にわたりサポート。住まいの価値向上と資源循環につなげる	住まいのライフサイクルにおけるゼロエミッションの深化
5	ダイバーシティの推進と人材育成 多様化するニーズへの敏感な反応、独創的な発想で高付加価値を生み出す「サステナブルな企業集団」を目指す	住まいとコミュニティの豊かさを最大化
6	海外への事業展開 世界各地の多様な気候風土、文化、ライフスタイルを踏まえて現地の社会課題解決に貢献する住まい・まちづくりを推進する	住まいのライフサイクルにおける CO ₂ ゼロ事業を通じた生態系ネットワークの最大化 住まいとコミュニティの豊かさを最大化

「CSV 戦略」と GRI スタンダードのマテリアルな項目

CSV 戦略	特定した GRI スタンダードのマテリアルな項目との相関
1 住宅のネット・ゼロ・エネルギー化	▶ ●エネルギー ●大気への排出 ●マーケティングとラベリング
2 生物多様性の保全	▶ ●生物多様性 ●サプライヤーの環境面のアセスメント ●調達慣行
3 バリューチェーンを通じた顧客価値の最大化	▶ ●顧客の安全衛生 ●社会経済面のコンプライアンス ●労働安全衛生
4 アフターサポートの充実による住宅の長寿命化	▶ ●排水および廃棄物 ●マーケティングとラベリング ●顧客の安全衛生 ●社会経済面のコンプライアンス
5 ダイバーシティの推進と人材育成	▶ ●ダイバーシティと機会均等 ●労働安全衛生 ●研修と教育 ●雇用 ●人権アセスメント
6 海外への事業展開	▶ ●エネルギー ●生物多様性 ●顧客の安全衛生 ●経済パフォーマンス

中期経営計画と「CSV 戦略」

持続可能性を基軸に据えた「CSV 戦略」は、
経営方針・経営計画の方向性と合致することにより有効に機能します。
中期経営計画に盛り込まれた「事業戦略」ならびに持続的成長を目指した
ESG への取り組みにおける「CSV 戦略」の位置付けを以下に示します。

第4次中期経営計画(2017～2019年度)の事業戦略と「CSV 戦略」

1～6 = 「CSV 戦略」との対応

事業戦略

		請負型 ビジネス	ストック型 ビジネス	開発型 ビジネス	国際 ビジネス
成長戦略	基本方針	1,2,3 高付加価値住宅の供給	4 グループ連携の強化	1,2,6 将来にわたる資産価値の形成	
	重点課題	損益分岐点管理に ● ZEH ● 3・4階建て住宅 ● 収益物件賃貸住宅 ● エクステリア事業 ● Trip Base 事業* ● CRE、PRE 事業	よる利益率の向上 ● 高入居率の確保 ● 省エネルギーフォーム ● リノベーション ● スムストック ● 既存住宅流通	成長投資と回転率の向上 ● 戸建分譲地の取得 ● まちなみ重視の 開発 ● Trip Base 事業* ● 出口戦略の強化	● 米国における BtoC ビジネスへの挑戦 ● 環境重視型開発の 推進
経営基盤	コア・コンピタンス	1,3 技術力	4 顧客基盤	施工力	

※ Trip Base 事業 = インパウンドの増加に伴う宿泊需要の増大に対応する請負・不動産開発事業

持続的成長を目指したESGへの取り組み

1,2 環境経営 E

〈エコ・ファーストの約束〉

- 温暖化防止
- 生態系保全
- 資源循環

- 国際的なイニシアチブ「RE100」に加盟 (建設業界で国内初)
- 温室効果ガス削減で「SBT イニシアチブ」の認定を取得 (住宅業界で国内初)

5 社会性向上 S

〈働き方改革〉

「わくわくドキドキ心躍る職場づくり」

- 公正な評価と見える化
- ITによる業務の効率化
- 「ライフワークバランス」の実現 → 生産性向上

〈ダイバーシティの推進〉

- 女性活躍推進
- 仕事と育児の両立支援
- 仕事と介護の両立支援
- 障がい者が働きやすい職場づくり

ガバナンス G

あらゆるステークホルダーの信頼を得ながら持続的に企業価値を向上させるためにコーポレートガバナンスを経営上の重要課題と位置付けています。右記の6項目を掲げ、体制強化を図ります。

- | | |
|-------------------|-----------------|
| ① 代表取締役の70歳定年制の導入 | ④ 経営会議の設置 |
| ② 女性社外役員の登用 | ⑤ 取締役の担当部門の明確化 |
| ③ 取締役会運営の透明化、活性化 | ⑥ 取締役会の実効性評価の実施 |

ESG 当社の経営基盤である ESG への取り組みが多方面で評価

- 「Dow Jones Sustainability Indices (DJSI) World Index」や「FTSE4Good Global Index」「FTSE Blossom Japan Index」などの構成銘柄に選定
- 「RobecoSAM Sustainability Award 2018」(住宅建設部門)で「Gold Class」「Industry Mover」に同時選定
- 「2017 MSCI ジャパン ESG セレクト・リーダーズ指数」に選定